



# ふるさと兵庫 魅力発見!



 HYOGO  
150th Anniversary

兵庫県教育委員会

# 知ってほしい 考えてほしい ふるさと兵庫のこと



兵庫の地には、かつて、<sup>せつつ</sup>摂津、<sup>はりま</sup>播磨、<sup>たじま</sup>但馬、<sup>たんば</sup>丹波、<sup>あわじ</sup>淡路の5つの国がありました。それぞれの地域に多様な風土、歴史、文化、産業などがあり、その多様性から、兵庫県は「日本の縮図」ともいわれています。そして、それぞれの地域に今もなお受け継がれている伝統や文化、産業には、多くの先人の知恵や努力がつまっています。

2018（平成30）年7月、兵庫県が誕生してから150年を<sup>むか</sup>迎えました。この節目に、先人たちが築いてきた兵庫県の多くの<sup>りょく</sup>魅力を知ってほしいと思います。そして、その思いを受け継ぎ、新たな兵庫を築くためにどんなことができるのかを考えてほしいと思います。

この冊子には、自然や産業、歴史、伝統、ものづくりなど、様々な分野から兵庫県の魅力を紹介しています。自分の地域はもちろんのこと、他の地域にも目を向け、兵庫県の多様性や地域を<sup>こ</sup>越えたつながりなど、たくさんの魅力を発見してください。



# 播磨の森林の恵みを生かした産業

## 昔ながらの技術技法ですかれています手すき和紙「杉原紙」すきはらがみ

多可町で、今でも昔ながらの生産技法ですかれています手すき和紙「杉原紙」。その歴史は古く、900年以上前の平安時代には、この地で紙がすかれていたことがわかっています。

その最大の特徴とくちょうは色の白さ。その白さを出すために、冬の川さらし作業を欠かさずに行っています。



写真は2点とも多可町教育委員会提供

大正時代末に一度途絶えましたが、1970（昭和45）年

に昔ながらの技術技法が再現されました。現在、多可町の小学校では、自らがすいた杉原紙てわたの卒業証書が手渡されています。



## 「森林王国」しそう 宍粟市

江戸時代から林業が栄え「森林王国」と呼ばれる宍粟市。市の約9割が森林、そのうちの7割を人工林が占める宍粟市では、県内で最も多い杉や檜ひのきといった針葉樹を生産しています。また、すべての原木を無駄なく活用するために、市内外の関係企業きぎょうが連携した「兵庫木材センター」を設立し、原木生産から、製品製造、供給まで一貫体制で取り組んでいます。

さらに、木くずた焚きボイラーを導入し、樹皮、木くずを燃料はいきぶつに活用することで廃棄物ゼロを目指すなど、環境に配慮した取り組みも行っています。



かんきょう はいりよ